

古泉 肇ファウンダーが渋沢栄一賞を受賞
第16回市民公開講座「新潟食と健康フォーラム」を開催
「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2023 詳細
特別講演会「激動する世界情勢と食料問題」4月26日開催へ

2024/3/13 第50号

古泉 肇ファウンダーが第22回 渋沢栄一賞を受賞



渋沢栄一賞は、「多くの企業の設立や育成に携わる一方で、福祉や教育などの社会事業にも尽力した、渋沢栄一の生き方や功績を顕彰するとともに、今日の企業家のあるべき姿を示すため、渋沢栄一の精神を今に受け継ぐ全国の企業経営者を対象に、埼玉県や深谷市などが毎年選定している賞です。

授賞式は令和6年2月6日(火) さいたま市大宮区のソニックシティホール国際会議室で行われ、大野元裕埼玉県知事から表彰状が贈られ、小島進深谷市長から渋沢栄一ブロンズ像が授与されました。

今回は古泉肇氏の他に(株)伊藤園の本庄 八郎代表取締役会長ら2名が受賞しました。

古泉肇ファウンダーの受賞理由は、「優れた経営者」として、亀田製菓(株)を米菓業界で全国トップシェアを占める企業に成長させたことに加え、「社会への貢献」として、(公財)食の新潟国際賞財団を設立し、世界の食に関する課題に先進的に挑戦し、成果をあげている人物を表彰してきたことや、(公財)古泉財団を設立して大学生への奨学金給付や、学生・若手研究者への研究費助成を実施していることなどが高く評価されました。

渋沢栄一賞の新潟県内の受賞は、中山輝也氏、池田 弘氏に次いで三人目です。



第16回市民公開講座 新潟「食と健康」フォーラム 開催

市民公開講座新潟「食と健康」フォーラムが10月22日(日)に新潟市で開催されました。このフォーラムは新潟市からの委託を受けて、食と健康というテーマで専門の先生から市民に分かりやすくお話してもらう主旨で毎年開催しています。

今回のテーマは、「新潟のお米と食文化」。会場は新潟市食育・花育センターで、対面式での開催となり3名の講師が登壇しました。

今回はこれまでの医学や、研究等の発表の他に、新潟の食文化もテーマとして盛り込まれました。

さらに県内企業の方々からブース出展と参加者へのお土産をご協賛いただき、低たんぱく米などの紹介や新潟を代表する食文化としての笹団子の紹介等が行われました。



開会と進行は新潟「食と健康」フォーラム実行委員会代表で本フォーラムの座長である新潟大学大学院医歯学総合研究科特任教授の斎藤亮彦先生から開会の挨拶がありました。



第1部 テーマ：「新潟の風土が育てた食と食文化」

講師：日本食生活協会認定郷土料理スペシャリスト

食生活改善推進員協議会 新潟県会長 外山迪子先生

主に郷土料理についてのお話。

新潟の郷土料理は主に米によって支えられてきた。郷土料理はその地域による気候や地形、地質によるいわゆる風土が大きく影響する。郷土料理は歴史や隣接する他の地域にも大きく影響を受ける。下越地方は山形県、中越は福島・会津の影響、上越は富山県、長野県から影響を受けているところが多い。対照的に魚沼辺りは山に隔たれて隣接する群馬県から影響された部分は確認できなかった。特に佐渡は歴史的な側面からの影響が多く、西の方(京都)の文化が根付いている。

また、今でこそ日本一の米の生産地域だが、並々ならぬ土地改良の末の賜物であることも忘れてはいけない。米を年貢として収めていた当時、残った少ない米を工夫して作られた郷土料理が多数ある。

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食とは、単に日本食単体としてではなく、日本食にまつわる季節や伝統的な行事を含めてのもの。昨今は食の多様化により、外食中食の利便性や両親の共働き等もあって、自宅で自炊する、料理を作ることが少なくなってきた。これから郷土料理や伝統料理を伝えていくにあたり、それ以前に自炊することの大切さをどう伝えてくかが今後の課題になる。



協賛社による出展ブースを見学する参加者。



終了後、参加者へお土産をお渡しした。

第16回市民公開講座 新潟「食と健康」フォーラム 開催



第2部 テーマ：「健康寿命を延ばすための食事や運動～普段の生活で気にしてみる～」

講 師：新潟大学大学院 医歯学総合研究科

病態栄養学講座 特任講師 蒲澤秀門先生

食事と運動についてのお話。

近年、平均寿命は良くなってきているが、健康寿命と平均寿命の差の10年の間は未だに変化がない。それが問題で、健康寿命と平均寿命の間にある要介護状態にならないために、その前段のフレイルにならない、またはフレイルから自立状態に戻ることが大事である。

フレイルの特徴は自立に戻れること。要介護状態からフレイルに戻すことはかなり難しい。フレイルにならないためには栄養身体活動、社会参加、特に社会参加、他者との交流が重要である。

運動は有酸素運動やレジスタンス運動など、無理の無い運動が効果的である。スポーツ庁のセルフチェック動画がおすす。家事も有効な運動になる。日常生活の活動量を10分増やすだけでかなりの効果がある。また、単一の食品、サプリメント、栄養素等で健康寿命が延びることは無く、バランスよく食べることを考えていかなければいけない。

アルカリ性食品を摂取すると心血管や脳血管脂肪が少なく、酸性成食品を多く摂っていると死亡のリスクが高まるという報告がある。しかし、発酵食品は酸性成食品でありながらも腸内細菌を整えるなど身体に良い側面もあるので、この辺りのバランスについては今後の研究次第になる。

腎臓の話について、腎臓病を治すことは今の医学ではできない。早期発見と侵攻の抑制のみである。そのため早めの検診を促している。進行の抑制には低たんぱく質米などの食事療法をおすすめしている。

第3部

テーマ：「お米と健康について～健康に良いいろいろなお米～」

講 師：新潟薬科大学 応用生命科学部

応用生命科学科 特任教授 大坪研一先生

米は小麦、トウモロコシに並んで世界の三大穀物の一つ。世界人口の過半のカロリー源になっている。世界で栽培されているイネはアフリカイネとアジアイネの2種。米の耕地面積は毎年減少している。食生活の変化（経済成長）に影響されやすいので長期的に見ると米をはじめとする穀物が不足することが予想される。また、貿易に扱われる量が少ないので国際価格の変動が大きい。

日本は米の年間生産量、消費量もどんどん減っている。代わりに畜産類や油脂類の消費が増大した。日本は自給できる作物や食品が少なく輸入に頼る食品が多いのが問題である。

新潟県の水稲の作付面積、収穫量、産出額はいずれも日本一で新潟米は日本のトップブランドである。また、他県の製造出荷額は電気製品等が1位であるが、本県では食品産業が1位であり、食品が重要な位置を占めている。特に米菓、包装切り餅、水産練り製品の出荷額はいずれも全国1位である。

誤解されがちだが、ご飯は太りにくい食べ物であり、油も少ない。茶碗1杯のカロリーはショートケーキの半分、ラーメンの1/3くらい。文科省のデータでは1日3食をきちんと食べていた方が、学力成績が向上すると科学的に裏付けられている。米は血糖の上昇が緩やかで糖尿病にもなりにくく、腹持ちも良い。

ご飯の美味しさは品種だけでなく産地、気象条件、栽培法、収穫、乾燥調整等の条件が全て整うことで決まる。最近はお米の産地間競争が激しくなっている。美味しさは必須条件になり、さらに高温耐性や収穫量の増加などの特性を持った品種が出てきている。

健康との関係ではメディカルライス協会等で白米より栄養成分の豊富な玄米食を推進している。他の特徴としては、米は小麦のようにグルテンを含んでおらず、グルテンフリーとして世界的に求められている。硬い米から作るパンは血糖値上昇を通常の米よりも更に抑えられ、パン粉にすると油を吸いにくいヘルシーな天ぷらが作れることがわかった。糖尿病患者は通常より2倍も認知症になりやすいため、現在、糖尿病と認知症の両方の改善に効果のある糖尿病認知症複合予防米飯の実用化を目指している。



「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト2023 開催

1. 開催趣旨

新潟の食品産業や農業及び関連産業の課題解決と、さらに発展するためのアイデアや画期的な提案を、新潟県内の大学等に通う学生が、プレゼンテーション方式で発表する、学生ビジョンコンテストが今年も開催され、最優秀賞(グランプリ)をはじめ各賞を競った。

この大会の趣旨は下記の通りで昨年に続き2回目の開催。決勝大会には書類審査に応募した35チームから選ばれた12チームが出場した。

- ・新潟県の食料産業(食品製造・農業・漁業等)への関心と認識を高める。
- ・新潟の食料産業を担う人財の育成と食品産業の振興に資する。
- ・新潟県内大学等の学生と食料産業、及び食の新潟国際賞財団との協力連携を図る。

2. 決勝大会

月日:2023年11月18日(土) 13:00~17:50

会場:開志専門職大学紫竹山キャンパス

テーマ:自由課題

発表時間:プレゼンテーション8分+質疑応答5分

出場チーム:12チーム

(5大学9作品、1大学院1作品、1専門学校1作品、
1工業高等専門学校1作品)

来場者:90名



主催者挨拶 池田 弘 理事長

12名の審査委員の厳正な審査の結果、最優秀賞(グランプリ)には、「日本国内において採掘不可能なリンを下水汚泥灰から回収し、それを肥料として用いて作物を作り、人間が食べて排泄し下水となるというサイクルによる循環型社会の構築」を提言した、新潟大学「スマートドミトリー リン班」チームが輝いた。

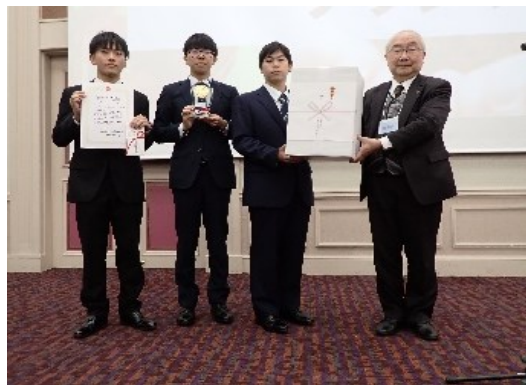
優秀賞(準グランプリ)には、「湿熱処理した日本玄米の輸出で日本米の消費量拡大」を提案した、長岡工業高等専門学校「もぐもぐ工房」と、「地元の健康課題である高血圧予防を若い世代から進めるために、手軽なスムージーを活用して、若年層の食生活を改善し生活習慣を見直す企画」を提案した、新潟医療福祉大学「スズキスムージー」チームが選ばれた。

また、それ以外の9チームには審査委員特別賞と協賛社特別賞が贈られた。



3. 審査結果と表彰式

賞	テーマ	チーム	大学
グランプリ	下水汚泥灰からのリン回収による循環型社会の構築	スマートドミトリー リン班	新潟大学
準グランプリ	ナトカリ・スムージー	スズキスムージー	新潟医療福祉大学
準グランプリ	長岡高専スタートアップ！ 輸出用の玄米で、新潟の農の未来を元気に	もぐもぐ工房	長岡工業高等専門学校
亀田製菓(株)特別賞	世界の災害を救う未来を目指して ～「災害食」に貢献する新潟県～	でこぼこツインズ	新潟大学
(株)ブルボン特別賞	食料自給率向上に向けた油糧微生物による油脂発酵生産	OUBI 2	新潟薬科大学大学院
一正蒲鉾(株)特別賞	低利用魚の活用～もったいないをなくして新潟を元気に～	あおりんご	新潟食料農業大学
サトウ食品(株)特別賞	新潟・KOME・ゲートウェイ ～世界の米研究集積でKOME王国NIIGATAを発信！～	MiYo	新潟食料農業大学
(株)栗山米菓特別賞	食物アレルギーの方が安心して利用できる飲食店	だいちのちから	新潟ビジネス専門学校
(公財)古泉財団特別賞	新潟県におけるアクアポニックスの推進—持続可能型農業の実現を目指して—	アクア	新潟県立大学
審査委員特別賞	国内初シニア向け完全栄養食「Me TIME FOODS」	株式会社 LacuS	開志専門職大学
(公財)食の新潟国際賞特別賞	大豆ミート(代替肉)を身近なものにし、健康増進とともに持続可能な社会を	元気の源だいずんずん	新潟医療福祉大学
(公財)食の新潟国際賞特別賞	ハラルフードの持続可能な生産と国際市場への展開戦略	チームりかLove	新潟県立大学



グランプリ「スマートドミトリーリン班」



準グランプリ「もぐもぐ工房」、「スズキスムージー」



グランプリ受賞と準グランプリ受賞のチーム



賞状、盾、副賞、協賛社贈呈品が贈られた

4. 特別賞の贈呈

特別賞として、審査委員特別賞、協賛社特別賞等が贈呈された



亀田製菓(株)特別賞の贈呈



一正蒲鉾(株)特別賞の贈呈



審査委員特別賞の贈呈



協賛社贈呈品

ご協賛社から頂いた賞品は会場に展示して、コンテストに作品応募して頂いたすべてのチームに贈呈致しました。



大坪研一審査委員長



審査委員特別賞、協賛社特別賞等を受賞した各チーム



5. 審査委員長 講評

審査委員長の(公財)食の新潟国際賞財団理事の大坪研一先生(新潟薬科大学特任教授)が講評を行い「どの作品も学生ビジョンとして価値の高いものだった。この学生ビジョンコンテストを通して各審査委員の企業、団体、自治体のみなさまと連携して、新潟への地元愛を培っていただきたい」と若い学生たちへの期待を語った。

6. 交流会

表彰式終了後には、参加した学生とコンテストの実行委員、審査委員の方々との交流会が行われた。チームごとに対面で交流し、学生からは様々な質問や意見が積極的に出され、企業の関係者や大学の先生らが答えるなど、充実した意見交換会となった。



7. 視察ツアーの開催

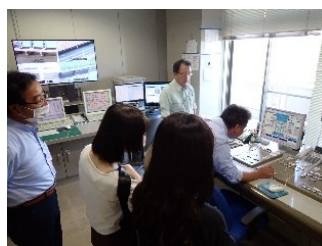
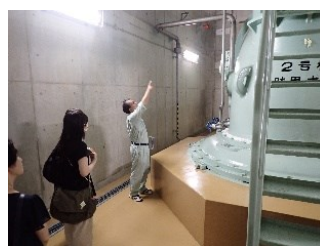
8月7日(月)視察ツアーを実施。米菓産業の現状と農業基盤整備の重要性を学んだ。

(株)栗山米菓の工場では機械化された工場で次々と生産される商品や工場の説明を受けた。

親松排水機場では鳥屋野潟に集まった排水が、それより標高が高い信濃川にポンプによって排出される仕組みや能力等の説明を受け、巨大なポンプや制御室等を見学した。



(株)栗山米菓ばかうけファクトリーの視察



親松排水機場の視察

8. コンテストの概要と全体スケジュール

3月～4月 大学・専門学校・工業高等専門学校等を訪問してエントリーを依頼。

並行して大学等の対象校にポスター・チラシ等を送付し広報をした。

3月10日(月) 第1回実行委員会開催(Web会議)

6月16日(金) エントリー締切り(エントリー数45チーム)

(大学8、大学院2、工業高等専門学校1、専門学校2、農業大学校1)

6月24日(土) オリエンテーション開催(Web開催)

【内容】

(1)コンテストの開催方法とスケジュールの説明

(2)実行委員・協賛企業からの期待と激励

講師:協賛企業代表(実行委員)亀田製菓(株) 高橋 肇氏

(株)ブルボン 浅野和男氏

(3)セミナー①「新潟県の農業と食品産業の歴史と未来」

講師:新潟薬科大学特任教授 大坪研一先生

セミナー②「食と農をめぐる世界の情勢と新潟への期待」

講師:(株)共同通信社アグリラボ所長 石井勇人氏

8月7日(月) (株)栗山米菓ばかうけファクトリー・親松排水機場視察ツアー実施

9月19日(火) 第1回審査委員会開催(Web会議)

9月22日(金) 作品提出締切り(応募作品35チーム)

(8大学20作品、2大学院2作品、2専門学校11作品、工業高専1作品、

県農業大学校1作品)

9月27日(水) 書類審査開始(審査委員へ書類審査用資料を発送)

10月26日(木) 書類審査結果を各チームに通知

11月18日(土) 決勝大会開催

主 催:(公財)食の新潟国際賞財団、

「にいがた食と農の未来」学生ビジョンコンテスト実行委員会

協 賛:亀田製菓株式会社、株式会社ブルボン、一正蒲鉾株式会社、サトウ食品株式会社、

株式会社栗山米菓、株式会社エイケイ

後 援:農林水産省北陸農政局、新潟県、新潟市、JAグループ新潟、(公財)古泉財団、

新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、

TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM新潟77.5

特別講演会「激動する世界情勢と食料問題」 4月26日開催

講師:元国連事務次長(広報担当) 財団評議員 赤坂清隆氏

WFP国連世界食糧計画 日本事務所代表 津村康博氏

詳細は別紙案内
をご覧ください

● 特別会員

亀田製菓(株)	(株)ブルボン	(学)新潟総合学園
一正蒲鉾(株)	サトウ食品(株)	新潟県農業協同組合中央会
(株)第四北越銀行	(株)栗山米菓	亀田郷土地改良区
(株)新潟日報社	(株)新宣	(株)エイケイ
亀田商工会議所	(株)新潟クボタ	NST新潟総合テレビ
にいがた22の会	(株)日本食糧新聞社	五十嵐建設工業(株)

● 正会員

新潟県信用組合	新潟工科大学産学交流会	新潟工科大学
(株)第一印刷所	(株)キタック	(株)日本旅行新潟支店
(株)本間組	北越工業(株)	(株)田中組
石本酒造(株)	丸榮製粉(株)	(医)愛仁会 亀田第一病院
(株)ミカサ	鍋林(株)ヘルスフーズ事業部	(株)ひらせいホームセンター
神山物産(株)	TeNYテレビ新潟放送網	ワタキューセイモア(株) 新潟営業所
ハセガワ化成工業(株)	(株)栗田工務店	(株)エヌエスアイ
藤屋段ボール(株)	三和薬品(株)	(株)トップライズ
(株)タケショー	松田産業(株)	(株)ウオシヨク
(株)新潟博報堂	セツソカートン(株)新潟工場	(株)ヤマダ
BSN新潟放送	東邦産業(株)	(株)新潟国際貿易ターミナル
新潟陸運(株)	麒麟山酒造(株)	八海醸造(株)
(株)新潟食品運輸	(株)加島屋	(株)荏原製作所 北陸支社
月島食品工業(株)	(株)日本フードリンク	(株)せいだ
(株)ニッポン関東支店	(株)ディモルギア	新潟医療生活協同組合
日本甜菜製糖(株)	UX新潟テレビ21	
(株)鳥梅	イカリ消毒(株)	

● 個人会員

古泉 肇	藤島 安之	和田 充彦	高畑 昭文	廣瀬 利雄	山口 勉	高橋 常考	田村 敏郎
杉本 克己	近藤 鴻	大川 秀雄	大倉 正寿	吉岡 謙一	古口 日出男	坂田 武利	門脇 基二
大谷 勝男	佐藤 久栄	阿部 徳威	田中 作一	佐藤 和雄	大沢 一衛	佐藤 勉	大島 千春
野上 敏	渡辺 昭雄	槇坂 文晴	清水 良一	五十嵐 源一	新保 房機	古泉 榮三	佐藤 純
倉嶋 則昭	塚本 太一	大越 斎	野口 正晴	酒井 定勝	齋藤 秀明	松本 裕志	當野 篤
高山 利夫	久保田 紳一	河瀬 三千夫	和澄 孝男	五十嵐 修	望月 健三郎	山田 雄治	鈴木 正二
竹石 松次	古泉 幸代	大森 ゆかり	高橋 慶三	阿部 昭一	渡邊 信也	宇野 勝雄	赤塚 義廣
坂井 俊一	鈴木 伸作	佐藤 銀治郎	加藤 寿一	石附 由美子	齋藤 博文	斎藤 幸広	田辺 俊文
小田 静二	渡邊 徹	中村 好彦	栗田 浩	栗田 朋子	阿部 文仁	高尾 茂典	五十嵐 豊
久代 勝英	古泉 幸一	加藤 純子	高倉 広利	清水 泰成	阿部 愛子	宮口 澄子	五十嵐 康子
五十嵐 早苗	佐藤 文男	高橋 征男	高橋 克郎	田村 泰生	山崎 尉生	中村 雪絵	村山 浩太郎
稲葉 晋	川崎 千春	秋山 正之	松川 忠史	濱野 剛	小川 善弘	池田 祥護	星野 幸三
糸満 盛人	北垣 大介	小林 哲也	岡田 茂久	遠山 幸男	小野 隆樹	大橋 祐貴	前田 穰
桐原 隆晃	長井 基樹	岸田 良満	中村 健一	小林 宏志	柳澤 敏郎	遠藤 俊介	葉葦 正幸
津島 章彦	舟崎 義朗	小川 陽一	大日方 聡	宮下 好文	坂田 浩一	田中 雅史	藤間 佑輔
品田 卓也	渋谷 政道	村山 雄亮	北爪 文義	近藤 正	高橋 佑	荒井 弘美	重泉 篤史
本間 康弘	中野 克之	高橋 誉	最上 正人	石田 勇介	佐藤 正尚	下條 幸二	廣川 正通
小谷 尚志	高橋 道映	田中 弼	佐藤 浩晃	村山 和恵	小林 達	長谷川 久晃	酒井 栄一郎
佐藤 聡	小林 守	阿部 欣也	杉谷 浩一	榊原 由貴	金田 季之	宮島 泰	高崎 俊哉
高橋 裕作	小平 勝志	藤田 正明	池田 一史	宮嶋 一博	小嶋 孝代	渡邊 雄一郎	駒形 正明
阿部 貴美	大沼 成勝	丸山 智史	岡田 龍	小野 隆樹	田邊 威	高橋 大介	伊藤 雅明
秋堂 春美	田中 義夫	長谷川 克弥	山口 穰	田中 湖雄	牧 利幸	伊藤 正弘	本間 春治
早川 重男	田村 征司	樋口 正仁	伊積 豊	小林 稔	吉田 たかし	山本 善政	小島 隆
小林 松一	高橋 昭博	高橋 眞代					